

イセエビの分類学上の位置と見分け方

ホテルやレストランでのイセエビの表記法が近年問題となりました。ロブスターとイセエビの違いや、海外産のイセエビと国内産のイセエビの違いなどは、一般にはよく知られていないことであり、水産研究所にも数多くの問い合わせがありましたので、ここでロブスターとイセエビの定義やイセエビの見分け方について少し説明します。

ロブスターという名称は広義と狭義の2通りの意味で使われており、広義では「海底を歩いて移動する大型のエビ類」に対して使われます。イセエビ類もまさにそのようなエビであり、英語でもイセエビ類のことを **spiny lobster** (スパイニー・ロブスター) あるいは **rock lobster** (ロック・ロブスター) と呼び、イセエビ類は広義でのロブスターに含まれます。

一方、狭義では「北部大西洋に生息し、大きなハサミを持つ大型のエビ(代表的なものとしてアメリカンロブスター(図1)やヨーロピアンロブスターがあります)」を指します。したがって、イセエビを広義の意味でのロブスターと呼んで差支えありませんが、狭義の意味でのロブスターとは大きく違いますし、狭義の意味でのロブスターを指してイセエビ類とは言えません。



図1 イセエビ(左)と狭義のロブスターであるアメリカンロブスター(右)
(アメリカンロブスターは大きなハサミを持つことが特徴です)

広義でのロブスターにはイセエビ類を含め多くのエビ類が含まれ、このうち海に生息するものは4つの分類群(下目)に分かれます。つまり、ザリガニ下目、イセエビ下目、ムカシイセエビ下目、センジュエビ下目によって構成されます。狭義でのロブスターはザリガニ下目のアカザエビ科に含まれますが、イセエビ類はイセエビ下目のイセエビ科に含まれます。このように、狭義のロブスターとイセエビ類は分類学上、大きく離れた存在と言えます(「生物の分類法」を参照してください)。

[生物の分類法]

生物を分類する際には、お互いに形態が似通っているものをまとめて1つのグループとして扱います。そのグループのうち、最も小さなグループが「属」であり、イセエビは「イセエビ属」というグループに属しています。「属」には普通複数の種の生物が含まれ、「イセエビ属」

のエビは 29 種が確認されています（独特な形態を持つ種の場合は 1 つの属にその種しかない場合があります）。「属」の上のグループは「科」であり、「科」は複数の「属」で構成されます。イセエビが属する「イセエビ属」は「イセエビ科」に含まれます。更に、「科」の上には「目」という大きなグループがあり、「イセエビ科」は「十脚目」というグループに含まれます。ただし、「目」と「科」の間にもう少し多くの区分を設けた方が良い場合には「下目」や「亜目」としてくくられます。したがって、イセエビは「十脚目エビ亜目イセエビ下目イセエビ科イセエビ属」に属するエビとなります。

イセエビ科は、イセエビ属、ワグエビ属、リョウマエビ属、クボエビ属、ハコエビ属、ヨロンエビモドキ属、ヨーロッパイセエビ属、ミナミイセエビ属、チヒロミナミイセエビ属、カッチュウイセエビ属、ヨロンエビ属の 11 属からなり、世界中で 49 種が確認されています。これら 11 属は触角の付け根にある発音器（鳴音器、図 2）の有無によって 2 つのグループに分けられます。イセエビ属はその他の 6 属とともに鳴音器を持つグループを構成しています。鳴音器を持つグループのエビの触角を前後に動かしてみるとグーと音が鳴るので、鳴音器の有無はすぐに分かります。



図 2 イセエビの鳴音器

鳴音器を持つ 7 属の中で、イセエビ属を見分けるポイントはいくつかありますが、キーとなる形質として、①眼の上に鋭い棘（眼上棘）が発達し、その背面は滑らかであること（図 3）、②第 1 触角には著しく長い鞭状部があること（図 4）、が挙げられます。

鳴音器を持つ 7 属の中で、イセエビ属を見分けるポイントはいくつかありますが、キーとなる形質として、①眼の上に鋭い棘（眼上棘）が発達し、その背面は滑らかであること（図 3）、②第 1 触角には著しく長い鞭状部があること（図 4）、が挙げられます。



図 3 発達した眼上棘をもつイセエビ（左）と眼上棘が発達しないワグエビ（右）



図4 第1触角に発達した鞭状部を持つイセエビ（左）と発達しないワグエビ（右）
イセエビ属のエビは、発達した眼上棘を持ち、かつ、第1触角に発達した鞭状部を持つことが特徴です。

イセエビ属のエビは 29 種が確認されており、体の色合い、目の前にある触角板の棘の大きさと本数などによって区別することができます。イセエビの特徴は、全身が小豆色で触角に明瞭な縞模様がなく、触角板の前縁近くに 2 本の大きな棘があることです。参考までに、日本の南西部の亜熱帯海域に生息するカノコイセエビの触角板の前縁にも 2 本の大きな棘がありますが、カノコイセエビにはその周辺に短い棘が数対あることでイセエビと区別できます（図 6 左）。また、同じく日本の亜熱帯海域に生息するシマイセエビ（図 6 右）、ケブカイセエビ、ニシキエビ、ゴシキエビの触角板には大きな棘が 4 本あります。



図5 イセエビの触角板の棘（先端近くに 2 本の大きな棘があります）



図6 カノコイセエビ（左）とシマイセエビ（右）の触角板の棘。カノコイセエビは先端近くに 2 本の大きな棘とその周辺に数対の小さな棘があります。シマイセエビには、大きな 4 本の棘があります。